

2時間 18分台でパリへー招待競技者発表



名古屋ウィメンズマラソン 2024 の招待競技者を発表する日本陸連の
瀬古利彦ロードランニングコミッションリーダー（中央）ら
=2024年2月15日、名古屋市で

名古屋ウィメンズマラソン 2024（3月10日）の大会事務局は2月15日、招待競技者の13人を発表しました。今夏のパリ五輪マラソン女子代表の最後の1枠を懸けた最終戦。1月に前田穂南選手が2時間18分59秒で日本記録を更新。前田選手か、名古屋を走る日本勢6人のうち、このタイムを上回った日本人トップかに出場権が与えられます。

海外からはゴティトム・ゲブレシラシエ選手（エチオピア、自己記録2時間18分11秒）ら7人を招待。ペースメーカーには、シェイラ・チェプキルイ選手ら7人。ホイールチェアには、初参加2人を含む土田和歌子選手ら14人が参加します。

日本陸上競技連盟の瀬古利彦ロードランニングコミッションリーダーは会見で、「2時間18分30秒切りを」とレベルの高いレース展開を期待しました。

一般、エリート、オンラインのランナーを含め、名古屋ウィメンズに約1万8500人がエン

トリーし、同日開催の名古屋シティマラソン（ハーフ、10キロ）を含め、男女総計2万9000人が集結します。前回の3割増のランナーが早春の名古屋を駆け抜けます。

◆瀬古リーダーコメント要旨

女子マラソンの（パリ五輪への）ファイナルチャレンジです。女子の日本記録はいつ更新されるのかと思っていましたが、前田穂南選手が見事、19年ぶりの日本記録の2時間18分59秒を出してくれました。これを機に女子のレベルが上がってほしい。

曖昧な目標ではありません。（パリ五輪最後の1枠に入る基準は）2時間18分59秒です。

（名古屋に招待された）彼女たちはやってくれると思います。招待の選手全員が日本記録を出す力があります。五輪をつかむという思いが一番強い人が記録を破れる。

（マラソングランドチャンピオンシップ=MGC、23年10月=12位の）鈴木亜由子選手（自己記録2時間21分52秒）にもう一度、チャンスを与えたい。満足する結果を出していただきたい。加世田梨花選手（同2時間21分55秒）は（昨夏の）世界選手権、MGC（4位）でがんばってくれました。（24歳の）若さで挑戦していただきたい。

細田あい選手（同2時間21分42秒）はMGC3位で残念ながら五輪内定にはならなかった。意地を見せ、記録に挑戦してほしい。安藤友香選手（同2時間21分36秒）は初マラソンの記録（17年）を自ら破っていない。いよいよその時が来た。ここで切らないといつ切るんだという気持ちで意地を見せていただきたいと思う。

渡邊桃子選手（同2時間23分8秒）、大西ひかり選手（同2時間25分54秒）にとっては、2時間18分台は自分が切ろうと思わないと切れない。チャレンジしていただきたい。

海外からもたくさんの強い選手が出てくれます。彼女らに勝つのが日本記録につながる。果敢に勝負していただきたい。

ペースメーカーには2時間17分台の選手もいる。今までで最高のペースメーカーの力を借り、記録に挑戦していただきたい。(青山学院大の)原晋監督(が掲げる「大作戦」)にあやかって「負けてたまるか、なにくそ大作戦」で選手の皆さん、頑張ってください。

◆質疑への瀬古リーダー応答要旨

明らかに勝負より記録が彼女らのライバルなので、(2時間18分59秒を上回る)記録に向かってやるしかない。(日本記録更新時の)前田選手のように、前半より後半の方が速いレース展開ができれば日本記録が狙えると思います。(後半にペースを上げる)ネガティブスピリットを目指してほしい。

常識的には2時間18分58秒を切るペースを目指すと思う。調子がよければ、独走するだろう。できれば2時間18分30秒を切って(日本記録を)更新してほしいと思います。

(3月3日の東京マラソンに出場する)新谷仁美選手(同2時間19分24秒)にもがんばってほしい。女子が来たな、というレースが東京マラソン、名古屋ウィメンズ(3月10日)との2週で続けば、世界に追いつくきっかけになると思う。世界に伍するレースになればと思います。

(名古屋では)日本記録しかない。こんなエキサイティングなレースはない。今からワクワク、ドキドキで最高です。

◆瀬古利彦(せこ・としひこ)

1956年7月、三重県桑名市生まれ。県立四日市工高で中距離、早稲田大時代にマラソンで頭角を現し、エスビー食品時代に84年ロサンゼルス五輪、88年ソウル五輪代表。2016年に日本陸上競技連盟のマラソン強化戦略プロジェクトリーダーに就任した。